

地方建設業界におけるISO9000sの認識と対応に関する一考察

佐賀大学 学生会員 片岡 智宏
佐賀大学 正会員 石橋 孝治

1. はじめに

現在、建設省は2000年度から、一定規模以上の公共工事の入札条件へのISO9000シリーズ（以下ISO9000s）の適用に向けてパイロット事業を展開している。大手建設会社においては、認証取得を全社で終え、認証取得の動きは、工事規模の小さい地方中小建設会社に移行している。今後の競争社会を生き抜くためにも中小建設会社は、いち早く認証取得へ向けて活動しなければならない今日、佐賀県内の大手建設会社がどのように対応しているのか、現状の調査を実施した。

2. 調査の概要

調査方法を表-1に示す。

表-1 調査方法

調査対象	佐賀県内に本社を置く大手建設会社（土木一式）の29社
調査の手法	インタビュー調査：2社 アンケート調査：27社
実施期間	インタビュー調査：平成10年5月15日、6月26日 アンケート調査：平成10年10月9日～11月4日

調査の主な質問項目を以下に示す。

- 1) 建設省の動向補足状況と認証取得予定について
- 2) 認証取得に向けた活動状況について
- 3) 認証取得活動中における問題点について
- 4) 品質管理及び保証活動について

3. 回収状況

ここで調査対象を29社としているが、その内1社は既に認証取得を終えていたため、これ以降の項目においては対象を28社とする。回収状況を図-1に示す。図-1には前回（実施期間：平成9年12月17日～平成10年1月14日）実施したISO9000sに関するアンケートの回収状況も示す。今回の回収率は79.3%、前回は58.6%となっており、20.7ポイント上昇している。実施期間の違いを考慮してもISO9000sへの関心が着実に高まっていることを示している。

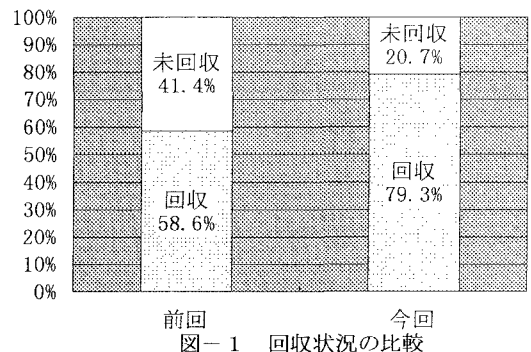


図-1 回収状況の比較

4. 調査結果

4.1 建設省の動向補足状況と認証取得予定について

建設省の動向補足状況に関する回答結果を図-2に示す。建設省の今後の政策を知っていた会社は、今回は78.6%、前回は39.3%で、39.3ポイント上昇しており、建設省の動向に注目が集まっていることが分かる。

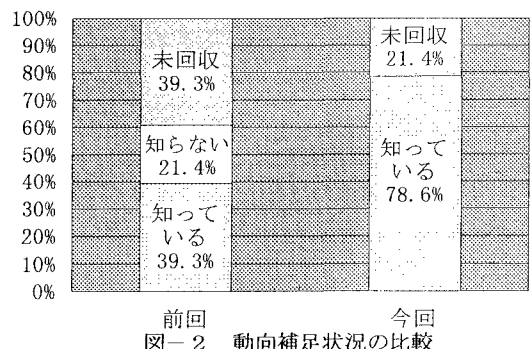


図-2 動向補足状況の比較

次に、認証取得予定に関する回答結果を図-3に示す。前回認証取得を予定していた会社は17.9%、今回は64.3%と、46.4ポイント上昇している。建設省の動向補足状況の変化が、そのまま認証取得

予定に現れている。主な認証取得予定理由は、

- ①公共工事の入札条件になる可能性があるため
- ②社内体質の改善、社員一人一人の意識向上のため
- ③他社との差別化、会社のイメージアップのため
- ④PL法対策のため

である。多くの会社が①を理由にあげている。建設省の動向を全社が知っていたことがその要因と考えられ、今後の経営規模の維持及び拡大が認証取得の一番の目的となっている。

4.2 認証取得に向けた活動状況について

認証取得に向けた活動の中心部局が、既設又は新設部局であるかの回答結果を表－2に示す。2／3の会社が既設部局で認証取得活動に対応しようとしている。ISO9000sでは、認証取得後に社内に内部品質監査員の設置や1年に2回の定期審査、3年に1回の更新審査等が要求される。認証取得後を見据えた体制づくりが望まれる。またこの既設部局の部局名を質問したところ、「土木部」、「総務部」、「企画部」等が回答として返された。これは品質管理が、これまでに部局単位で行われ、全社的に系統だった管理が行われていなかったことが伺える。

活動の進展段階としては、2社が平成11年2月、4月頃に本審査を控えている。そして残りの会社においては、「始めたばかり」という回答であった。この「始めたばかり」と回答している会社の認証取得目標時期は、ほとんどの会社が「2000年度までに」としている。建設業以外の会社を含め、これまでに認証取得を既に終えた会社に対し実施した別途インタビュー調査において、認証取得にかかる期間は、準備期間から認証取得までに1年半～2年を要している。いち早く準備を開始した会社と、そうでない会社の差が明確に結果に現れることとなった。

4.3 認証取得活動中における問題点について

会社が認証取得活動を進める上で問題としていることを以下に示す。

- ①コストの問題
- ②人員不足の問題
- ③認証取得に向けての活動方法の問題

4.4 品質管理及び保証活動について

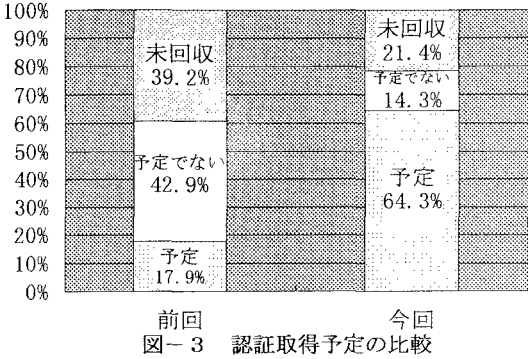
これまでの品質管理及び保証活動について質問したところ、品質管理活動については、「施工管理基準に基づいて」、「自社システムを構築して」、「現場サイドの社員に任せてきた」等と全社的とまではいかないものの、現場サイドで品質管理活動を行ってきた会社が多くみられた。品質保証活動については、ほとんどの会社が、「これまでに特別な活動を行っていない」という回答であった。ISO9000sの認証取得活動は、自社が如何に組織化されていなかったことを再認識する好機であると共に、効率的な組織を再構築する機会でもある。

5. おわりに

ISO9000s 認証取得の必要性に対する意識は、前回に比べ高い結果が得られた。既に認証取得を終えた会社が1社、平成11年以内に認証取得を終える会社が2社と着実に増えつつある。これから認証取得しようとする会社には、認証取得目標時期を「2000年度までに」とし、認証取得を急ぐあまり、ISO9000s がもつ“国際性”、“組織的品質管理及び保証体制”等を見落としている会社が多くみられた。ISO9000s の良さを理解し、無理のない認証取得活動と自社にあった組織的品質管理及び保証体制の構築を実施する必要がある。

謝辞

佐賀県建設業協会をはじめ今回の調査に御協力頂いた、佐賀県内の建設会社に厚く御礼申し上げます。



図－3 認証取得予定の比較

表－2 新設、既設について

新設部局	2
既設部局	12
現在、既設ではあるが新設する予定	4